

金陽会  
きんやうかい



概要

団体名	金陽会
代表者	吉山 安彦
構成	3名
推薦団体	合志市
主な活動地	合志市

本賞

金陽会は、国立ハンセン病療養所菊池恵楓園内で、昭和二十八年に発足した絵画クラブです。現在のメンバーは三人（うち活動しているのは一人）ですが、多いときには二十人ほどの入所者が制作活動に打ち込んでいました。

当会のメンバーが、限られた行動範囲での生活の中で、六十年以上にわたり記憶や思いを頼りに描き続けてきた絵画作品は八百五十点にも及びます。

近年は外部団体のサポートを得て、園外で作品を展示する機会も多くなり、これまでの作品や作者たちの思いを広く社会に伝える活動を行っています。絵を描くことで生きがいを見出し前向きに生きてきた人間の強さと、それを支えてきた芸術の持つ素晴らしい力は多く人に感銘を与えています。

このように、当会は、絵画の創作活動を通して、本県の文化振興に大きく貢献されています。

## これまでの主な活動歴

昭和二十八年 「金曜会」（のちに「金陽会」）発足  
昭和五十五年 熊日画廊にて園外初の絵画展を開催  
現在 （以降、県内外の美術館等で絵画展の開催を続ける）

平成二十九 熊本日日新聞の週次連載「絵の中のふるさと」で作品が紹介される  
三十一年

令和元年 N H K 日曜美術館にて「光の絵画」ハンセン病療養所・恵楓園 絵画クラブ金陽会」が放映される  
県外における絵画展の開催

平成二十八年 東本願寺しんらん交流館（京都市）  
平成三十年 奄美文化センター（鹿児島県奄美市）  
平成三十年 美和文化会館（愛知県あま市）  
令和元年 国立ハンセン病資料館（東京都東村山市）  
他